

A-9					
主題	感染症拡大予防のためのシミュレーション				
副題	正しい知識と意識の統一が拡大を防ぐ				
キーワード 1	感染症拡大予防	キーワード 2	シミュレーション	研究(実践)期間	12ヶ月

法人名・事業所名	社福) 白十字会 特別養護老人ホーム白十字ホーム
発表者(職種)	君塚隼(生活相談員)
共同研究(実践)者	堀井雄介(介護士)、鹿島朋子(管理栄養士)

電話	042-392-1375	FAX	042-392-1255
----	--------------	-----	--------------

事業所紹介	「トトロの森」のモデルとなった、東京都東村山市の八国山の麓に建つ、定員170名の従来型特養です。併設の東京白十字病院をはじめ、老健、デイサービス、居宅介護支援事業所等の事業所と連携しています。「安心・いきいき・心ゆたか」をスローガンに、地域での総合的・包括的なサービス提供に努めています。
-------	--

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

令和2年1月からの新型コロナウイルス流行に対し、施設内での集団感染を防ぐため、職員が正しい感染症予防の知識を持つこと、実際に対応ができることが求められている。

白十字ホームでは、「感染症予防委員会」を中心に、様々な形での研修を行ってきた。(毎年の必須研修の開催、手洗い検査機による手洗いチェック、嘔吐発生時の対応シミュレーション等)新型コロナウイルス流行により、さらに高い実践力と現場対応力を養うことが必要であった。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

現場に入る介護職員が、統一した正しい感染症予防対応を行うことにより、新型コロナウイルスをはじめとする感染症発生時に拡大を最小限にとどめられると考える。そのための正しい知識を共有するとともに、全ての職員が同一のケアや対応を行えるよう意識の統一を図ることを目的とした。

《3. 具体的な取り組みの内容》

- ・熱発、嘔吐発生時のコロナ感染を想定した対応実施(R2.6より)

利用者に熱発・嘔吐があった際は、新型コロナウイルスを想定した居室隔離と感染症対応を実施した。

(熱発者はPCR検査を受け結果が出るまで、嘔吐者は症状が改善し医師の判断があるまで継続)

- ・感染症予防委員・看護師による手洗いチェック(R2.6)

正しい手洗いを行えているかのチェックを個別に行った。

- ・ガウン着脱の解説動画撮影、配布(R2.6 R3.1)

看護師の指導のうえ、ガウン着脱手順の動画を作成し、全介護職員に視聴してもらった。

- ・感染症予防委員によるガウン着脱のチェック(R2.7)

ガウン着脱の解説動画視聴後、委員が全介護職員に対し個別にガウン着脱動作のチェックを行った。

- ・全体職員研修(R2.11)

新型コロナウイルスに関する基礎的な知識・発生時の対応についての動画視聴をした。

- ・職員 1 名新型コロナウイルス陽性発覚時（家庭内感染）の感染対応実施（R2.12）

家庭内感染による陽性者が職員に 1 名発覚した際、その職員が勤務しているフロアに対し、施設内での新型コロナウイルス発生を想定した完全隔離対応を行った。（フロア利用者全員と、施設内全職員が PCR 検査を受け、結果がわかるまでの約 2 週間。検査結果、全員が陰性であった）

- ・嘔吐対応の解説動画撮影、配布（R3.4）

感染症予防委員が嘔吐発生時の初期対応についての解説動画を撮影し、全介護職員に視聴してもらった。

- ・手洗い検査機実施（R3.5）

手洗い検査機を使用し、介護職員が自分の手洗いが十分かのチェックを行った。

《4. 取り組みの結果》

全体職員研修 74 名が参加

動画視聴、チェック関係 介護士 66 名から 76 名分実施（職員の出勤状況や入退職等により変動）

取り組み期間内において、利用者の感染症拡大は発生しなかった。（新型コロナウイルス 0 名、上気道炎 0 名、インフルエンザ 0 名）単発での熱発や嘔吐の発生はあったが、それらが拡大することなく終息したのは早めの拡大予防対応が正しくできていたことが要因であると考えられる。

また完全隔離対応時に 166 名の職員が PCR 検査を受けたが、全員が陰性であった。さらに R3.3 に 1 回（237 名）、R3.6 から毎週（150 から 170 名程度）唾液による PCR 検査を職員に実施しているが、陽性者は 0 名である。感染症予防や拡大防止に対する高い意識の統一ができていたのではないかと。

《5. 考察、まとめ》

感染症予防・拡大防止のため最も重要なことは、職員一人ひとりが「決まりごと」を理解し、確実に実行することである。その「決まりごと」を確実に身につけるために、言葉や文章だけでなく、動画の視聴による視覚的な理解や、実際に動作をしてみるシミュレーションは、ケアや対応の統一化を図る意味で効果的であった。

今後は個別のチェックをより強化し、認定証の発行などを行い、さらに意識と質の向上を目指していく。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

「高齢者施設における新型コロナウイルス予防 正しい知識とケアの方法で高齢者を守ろう！」東京都福祉保健局

「永寿総合病院看護部が書いた新型コロナウイルス感染症アウトブレイクの記録」高野ひろみ／武田聡子／松尾晴美

《8. 提案と発信》

当ホームでは、コロナ以前より感染症予防委員会による対応シミュレーションを行っていたため、その取り組みを強化する形でスムーズにシミュレーションが行えたと感じている。令和 3 年度の介護保険改正でも取り上げられたが、平時から有事を想定したシミュレーションを行うことが、特に感染症予防に関しては非常に重要であると実感した。